

ピロリ菌外来

1. ピロリ菌とは

1979年オーストラリアの病理医 Warren が、胃炎の胃粘膜に多数のラセン菌が存在することを報告し、1983年に共同研究者の Marshall が世界で始めてこの菌の培養に成功しました。その後この菌は *Helicobacter pylori* (ピロリ菌)と命名され、世界中で研究が始まりました。現在では胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発はピロリ菌に起因することが明らかになり、除菌療法による治療法が確立されています。両氏にはその功績により 2005年ノーベル医学生理学賞が授与されました。わが国では 2000年11月より [胃潰瘍・十二指腸潰瘍の患者様へのピロリ菌に対する除菌療法](#)が保険適用となりました。ピロリ菌外来では、主に胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発でお困りの患者様を対象として、ピロリ菌感染についての説明と除菌療法を含めた治療を専門的に行います。

2. ピロリ菌の診断

ピロリ菌に感染しているかは内視鏡検査による方法とそうでない方法に大別されます。

・内視鏡検査による方法

内視鏡検査により潰瘍の診断を行う際に、胃粘膜の一部を採取しピロリ菌の存在を調べます。

迅速ウレアーゼ試験：採取した胃粘膜組織に含まれるピロリ菌がもつウレアーゼ活性を検出します。

鏡検法：採取した胃粘膜組織を顕微鏡で観察します。

培養法：採取した胃粘膜組織を培養します。

・内視鏡検査によらない方法

尿素呼気試験：尿素試薬を服用し、ピロリ菌ウレアーゼによりどれだけ分解されたかを呼気で調べます。

血清(尿)中ピロリ菌抗体検査：血液あるいは尿中のピロリ菌に対する抗体を調べます。

糞便中ピロリ菌抗原測定法：糞便の中に排泄されるピロリ菌抗原を測定します。

3. ピロリ菌除菌治療の実際

ピロリ菌の除菌療法(一次除菌療法)は、プロトンポンプ阻害薬(胃酸分泌抑制薬)と抗菌薬を組み合わせで行います。使用されるプロトンポンプ阻害薬には、オメプラゾール、ランソプラゾール、ラベプラゾールがあり、そのうちのひとつとアモキシシリンとクラリスロマイシンという2種類の抗菌薬を合わせた3剤を朝夕2回1週間服用します。なおこれらの薬剤に対して過敏症の既往歴のある方は除菌療法を受けられません。またアモキシシリンはペニシリン系抗生物質ですので、**ペニシリンに対して過敏症のある方も原則禁忌**となっています。その他すでに治療中のご病気や服用中のお薬との関係で除菌療法ができない場合**もあります**。除菌成功率は1990年代には約80~90%でしたが、近年クラリスロマイシンの効かないピロリ菌(クラリスロマイシン耐性菌)が増加しており、除菌療法の成功率が低下する傾向にあります。除菌後の感染診断(除菌判定)は、除菌終了後4週間(抗体検査の場合は6ヶ月)以上経過した時点で実施します。一次除菌療法が不成功の場合には、クラリスロマイシンに代えてメトロニダゾールを用いた二次除菌療法(除菌成功率80%以上)が推奨されます(2007年8月承認)。

主な副作用には下痢(約23%)、軟便(約21%)、味覚障害(約17%)があります。軟便や軽度の下痢は治療継続可能な場合が多いですが、飲み続けているうちに下痢がひどくなった場合には、当クリニックまでご相談ください。また発熱、腹痛を伴う下痢、あるいは下痢に粘液や血液が混ざっている場合は直ちに服用を中止し、当クリニックまでご連絡ください。味覚異常は服薬終了後に症状が改善します。以上、除菌治療中の副作用(軟便や軽度の下痢および味覚異常)についてはご自分の判断で薬の量や服用回数を減らしたりせず、症状の発現状況に注意しながら、最後まで継続して服用するようにしてください。**なお二次除菌療法では、メトロニダゾールとアルコールとの相互作用が報告されているので、治療期間中はアルコールの摂取(飲酒)を避けてください。**

4. 除菌治療のあとで

除菌後の感染診断(除菌判定)は、除菌終了後 4週間(抗体検査の場合は 6 ヶ月)以上経過した時点で実施します。除菌に失敗した患者様に対しては、クラリスロマイシンに代わりメトロニダゾールを用いた除菌療法(二次除菌)が推奨されます。また除菌成功後でも潰瘍や胃癌などが発見されることがあるため、年に 1 度は経過観察のため通院されることをお勧めします。

一方、除菌が成功すると胃酸分泌能が改善することにより、胃びらん、十二指腸びらん、逆流性食道炎を認めることがあります。また除菌後に心窩部痛などの症状が改善することから食欲が亢進し、体重や血清脂質(コレステロール、中性脂肪)値が増加する可能性があります。従って除菌治療に際しては、これらのデメリットとメリットについて充分説明のうえ、ご納得いただいた後に治療を開始します。

5. 予約

当ピロリ菌外来は、スケジュールをご確認いただきご予約をお願い致します。当日は、[定期健康診断](#)や[人間ドック](#)などで胃潰瘍・十二指腸潰瘍と診断された方は、[結果報告書](#)を必ずご持参ください。またすでに別のご病気で服用中の薬があればお申し出ください。